第4講　助動詞（活用と接続）

PART1　助動詞の活用

助動詞

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	けり・たり・なり・めり・り　**※断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	**じ・らし**
形容詞型	まほし・たし・べし・まじ・ごとし　（※**「じ・らし・まし」以外の「〜し・〜じ」**）
四段型	**む・らむ・けむ**
サ変型	むず
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず・き・まし**

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず						○
	ざ[ら]	ざ[り]	○	ざ[る]	ざ[れ]	ざ[れ]
き		○				○
まし		○				○

↓下に「　　　」がつく

〈Memo〉

第４講　PART1　確認問題

① 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

何事かありけん、ゆかしかりしかど、…

ア　ラ行四段活用動詞の連用形
イ　ラ行上二段活用動詞の連体形
ウ　形容詞ク活用の連用形
エ　形容詞シク活用の連用形
オ　形容詞シク活用の連体形

② 空欄Ａ・Ｂには助動詞「ず」が入る。それぞれに入る最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

秀郷も後ろをかへりみ［Ａ］、はるかに行き隔たりぬ。
夢も結ば［Ｂ］仮寝の枕、…

ア　ず・ぬ　　イ　ざり・ぬ　　ウ　ず・ね　　エ　ざれ・ね　　オ　ざり・ね

③　傍線部の活用形・傍線部と活用形が異なるものの組み合わせを、次の中から選べ。

鏡に色・形あらましかば、うつら[a]ざら[b]まし。
大社（おほやしろ）をうつして、めでたくつくれ[c]り。
人げに塞か[d]れねば、…けしから[e]ぬかたちもあらはるるものなり。

ア　未然形・c　　イ　連用形・c　　ウ　終止形・d　　エ　連体形・a　　オ　已然形・a
カ　未然形・b　　キ　連用形・e　　ク　終止形・e　　ケ　連体形・b　　コ　已然形・d

④　「仰せ合せしかば、人の亡び失せし事、…」の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の已然形＋過去の助動詞「き」＋助詞
イ　動詞の連用形＋過去の助動詞「き」＋助詞
ウ　動詞の連体形＋過去の助動詞「き」＋助詞
エ　動詞の未然形＋過去の助動詞「き」＋助詞
オ　動詞の未然形＋過去の助動詞「けり」＋助詞
カ　動詞の連体形＋過去の助動詞「けり」＋助詞

⑤　空欄には動詞「知る」が入る。入る形として最も適当なものを、次の中から選べ。

思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く□まし

ア　知る　　イ　知ら　　ウ　知れ　　エ　知り

第４講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部「ゆかしかり」は形容詞「ゆかし」でシク活用の連用形。「ゆかしかり」の下は「しか（已然形）」＝助動詞「き」。「き」の接続は連用形。よって、エが正解。

② 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。Ａは「、」なので、連用形。さらに助動詞ではないので補助活用ではない。Ｂは「仮寝」＝体言なので、連体形。こちらも補助活用ではない。よって、アが正解。

③ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。傍線部「あら」の下は「ましか」＝助動詞「まし」。「まし」の接続は未然形。ａは、下が「ざら」＝助動詞「ず」。「ず」の接続は未然形。ｂは、下が「まし」。「まし」の接続は未然形。ｃは、下が「り」。「り」の接続は四段活用の時は已然形。ｄは、下が「れ」＝助動詞「る」。「る」の接続は未然形。ｅは、下が「ぬ」＝助動詞「ず」。「ず」の接続は未然形。よって、活用の異なるものはｃとなる。アが正解。

④ 「しか」は助動詞「き」。「き」の接続は連用形であることから、イが正解。

⑤ 形を変える＝活用形を判断するには「下」を確認するとよい。「まし」は助動詞「まし」で接続は未然形。「知る」はラ行四段活用動詞であるので、未然形は「知ら」となる。よって、イが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ ア　④ イ　⑤ イ